

開校準備協議会だより

令和7年9月24日発行
開校準備協議会

◇ マキノ小学校の新校舎の使用開始時期について

8月21日（木）、準備協議会の第7回会議を開催しました。会議の冒頭、今市長から新校舎の完成が令和10年4月には間に合わないことについてのお詫びと、木が本来もつ良さを子どもたち感じてもらえるように、できるだけ木材を取り入れたいとの思いが伝えられました。

続いて、川島教育長からは、次の説明がありました。

- ①スケジュールが遅れた理由
- ②新校舎完成までの間は、現行の3小学校のうち1校を仮校舎として使用し、令和10年4月の開校時期は変更しないこと。
- ③令和8・9年度には、児童の交流の機会をこれまで以上に設け、円滑な統合を進めること。



担当課からは、次の説明がありました。

- ①鉄筋コンクリートで建設する場合と、屋根を木造とし、その他を鉄筋コンクリートで建設する場合のそれぞれの使用開始見込みの時期
- ②内装は、いずれの場合にも木質化を図ること。
- ③木造化には、国の補助金や県の交付金を活用し、市の財政負担を抑えること。
- ④使用開始の遅れについて、保護者（現在年少～小学3年生）を対象に説明会を開催すること。



委員から出された質問や意見（要約）

Q. 校舎に木をふんだんに使うメリットは何か。

⇒ 子どもたちが木のぬくもりを感じ、豊かな心を育む教育が受けられる。

Q. 新校舎使用開始時期に統合時期をずらす考えはないか。

⇒ 一刻も早く統合してほしいという声もあるため、最速での統合を計画している。ただし、保護者説明会での意見も十分に考慮していきたい。

Q. 仮校舎として現行の校舎を使用するのであれば、可能な限り早く統合してはどうか。

⇒ 教育課程や教員人事、スクールバスの手配など様々な要素を考えると、統合時期は令和10年4月が最速と考えている。ただし、それまでの間も交流の機会を増やせるように、教育委員会事務局として支援していきたい。

（意見）

- ・遅れることは仕方ないが、子どもにとって環境変化が大きく、落ち着きにくなるのではないかと心配する。
- ・勾配のある屋根形状にすると、屋根雪が大きなリスクとなる。防災面や避難経路の確保など、安全面を重視してほしい。
- ・仮校舎をどこにするかについては、使い勝手の良さや利便性なども検討材料に含めてほしい。
- ・「子どもファースト」で計画を進めることが大切である。

裏面もご覧ください。

☆トピックス

この第7回会議の後、8月31日（日）と9月3日（水）の2日間、マキノ土に学ぶ里研修センター2階集会室で、教育委員会事務局の主催により「マキノ小学校の新校舎の使用開始時期の遅れに関する説明会」が開催されました。対象はマキノ地域のこども園（年少～年長）の保護者およびマキノ地域の小学校1～3年生の保護者の方々に、多くのご意見がありました。さらに、9月5日から10日までの期間には、説明会で寄せられたご意見をすべての対象の方々にお知らせするとともに、新校舎の屋根部分を木造とする案についてもご意見を募りました。説明会での主なご意見を紹介します。

◆新校舎の使用開始時期について

- ・令和10年4月の開校が遅れるのはおかしい。行政として間に合わせるべきではないか。
- ・使用開始が遅れる分、子どもたちにプラスアルファの取組をしてほしい。
⇒ 令和10年4月に新校舎でスタートを切るとは難しい状況ですが、可能な限り、早期の使用開始に努めます。また、統合に向けて3小学校の交流の機会を増やすことを考えています。

◆新校舎の構造について

- ・構造は木造でも鉄筋コンクリートでもよい。
- ・屋根形状は2種類示されたが、市として方向性は決まっていないのか。
- ・三角屋根にすると雪の問題があり、児童の安全に支障が出るのではないのか。
- ・凝った構造は、雨漏りや維持管理に不安がある。ランニングコストやメンテナンス性を考えてもらいたい。
⇒ 新校舎の構造・形状については、皆さまからいただいたご意見を尊重し、検討のうえ方向性を早急に決定し、進捗管理を着実にいき、これ以上遅れが生じないように努めてまいります。

◆引っ越しの影響について

- ・引っ越しは、学校環境や生活リズムが変わり、子どもたちにストレスがかかる。保護者や教職員への負担も含め、どのように考えているのか。
- ・負担を考えると、令和9年に統合することはできないか。
- ・引っ越し作業については保護者として協力したい。
⇒ 3小学校の閉校や、新小学校開校に関する検討事項を考えると、統合時期を前倒しすることは厳しいと考えております。引っ越しによる負担の軽減方法については、今後十分に検討してまいります。

◆仮校舎について

- ・仮校舎は現行の3校舎のうち、どこを使用するのか。
- ・仮校舎の場合、3小学校の児童が集まり児童数が増えることになるが、現教室で対応できるのか。
- ・仮校舎を中学校の横にプレハブ校舎にして建てられないか。
⇒ 仮校舎がどこになるかは今後検討してまいります。現行の小学校の教室は40人定員として作られているので対応可能です。プレハブ校舎はコストがかかるため難しいと判断しています。

※後日、対象保護者の皆さんに伺ったご意見では、屋根を木造化に賛成するご意見はありませんでした。

☆市立図書館からアンケートのお願い

現在のマキノ図書館は、老朽化が進んでおり、またバリアフリーへの対応が不十分なことから、ご高齢の方をはじめ多くの利用者の皆さまにご不便をおかけしていることや、十分にゆとりのある読書環境を提供できていないといった課題があります。

このため、新しく建設するマキノ小学校の学校図書館とマキノ図書館を併設し、課題解決につなげられないか検討を進めています。

つきましては、この検討にあたり地域の皆さまのご意見を伺うため、10月15日（水）までアンケートを実施します。ぜひ、率直なご意見をお寄せください。



アンケートはこちらから
(マキノ図書館にもアンケート
を備え付けています。)

(事務局) 〒520-1592 高島市新旭町北畑565番地



高島市教育委員会事務局 教育総務部教育総務課

TEL: 0740-25-8558

Mail: kyo-i-somu@city.takashima.lg.jp



『開校準備協議会だより』
は、市のホームページでも
見ることができます。



開校準備協議会
ホームページ